



作品
Works

園川 絢也 Sonokawa Junya
〈ウマレル・ツナガル〉
インスタレーション



子どもたちの作品を素材として、フラワーリングを制作しました。

展示場所 ① JR木津駅

MOYA
〈Weaving connection〉
壁画



塗料提供：塗り壁.com

作品タイトルの『Weaving connection』とは“縁を紡ぐ”という意味で、木津駅を東西に繋ぐ連絡通路の壁面に、木津川市で暮らす皆さんの縁や繋がりを紡いだ一本の縄を描きました。木津駅を境に東西に分かれる新しい街と古くからの街を繋ぐ象徴的なものになればとの願いも込めた作品です。

制作期間中に実施したワークショップでは市民の皆さんにもご参加頂き一緒に制作することができまし、制作中に声をかけて下さった方との会話がきっかけで木津川をイメージした配色で描くことを決めました。

木津川市民の多くが利用する木津駅で、壁画を通じて街の人達との縁を紡げたことをとても嬉しく思います。

展示場所 ① JR木津駅

林 勇気 Hayashi Yuki

〈another world-vanishing point〉(2022)

映像

一般から提供してもらった数多くの写真を素材として制作しました。インターネットに日々アップロード・保存される膨大な量の写真を可視化する作品です。宇宙空間のように、無数に漂う無数の写真の一枚一枚に提供者の記憶が詰まっています。このシリーズの制作を始めた当初は現代社会の中で起きている現象そのものをモチーフにしていました。しかし、今になってみると写真メディアが登場した1820年代から連綿と繋がる、眼前に見える光景を画像として記録し続けてきた人類の営みの歴史の集積に見えてきます。時に消失し、また再び立ち現れる無数の人々の記憶と記録。その瞬間瞬間を体感する空間となりました。

〈characters〉(2025)



ワークショップで参加者のみなさんに木津川に住む想像上の生き物・キャラクターを描いてもらいました。キャラクター(Character)という言葉は、作品のなかの登場人物や性格、記号、文字を意味します。そして、その語源「Kharaktēr」は石など硬い物質に刻まれた印という言葉に由来しています。鉛筆でカリカリと描かれた、姿かたちが簡略化された生き物たちは、時に記号のように、時に文字のように見えます。川の映像の中で個性豊かな生き物・キャラクターたちが生き生きと躍動し、物語を描(書)くことで、木津川のイメージを再形成しました。

協力：gallery PARC



展示場所 ② 木津川市役所 1F 住民活動スペース

しまだそう Shimada So
〈Close Encounters of the Third Kind〉
絵画(滞在制作・ワークインプログレス)



9時半ごろにここに来る。

キャンバスをくしゃくしゃに丸める。スプレーで色を吹く。定規で線を引く。テープでマスキングする。絵の具をめぐい取る。染みや汚れが広がる。指に絵具が付く。

そもそも何をしていたのか忘れてる。そもそも何も考えていなかった事を思い出す。UFOのようなもの、と口走る。聖杯のようなもの、火の玉のようなもの、狐のようなもの、境界に在るかもしれないもの。知っているが見た事もないもの、既に、未だ。直接触れられないものについて考える。

模様の前にいる。形の後ろにいる。

昨日描いた絵をみる。明日描く絵は想像しない。

16時ごろにここを出る。

中島 麦 Nakajima Mugi
 〈DIVING to KIZUGAWA COLOR〉
 ペインティング インスタレーション

初めてキチキチを訪れた時、真新しい市役所の横に控えめに佇むこの建物と空間がとても印象的だった。そこに在るモノたちが過ごした時間と僕が呼応するために、場にある物を作品にしようと考え、木津川で感じた色を現場の空気と共に流し込みました。

タイトルの〈DIVING〉は、僕自身が絵に飛び込み、潜るような感覚で絵を描いていること、色彩の海でダイビングするように作品を体験して欲しいという思いから名付けました。今回の木津川アートでは色彩と重力が描き出したテーブル上で、絵に入り込むように喫茶や食事を楽しんでもらうことができました。



800×1600×35mm ×4



400×600×20mm ×3



Acrylic on Canvas (既存のカフェテーブルの天板にキャンバス張り、同施設内にてペイント)
 画材提供：ホルベイン画材株式会社

展示場所 ③ 木津川市情報発信基地キチキチ

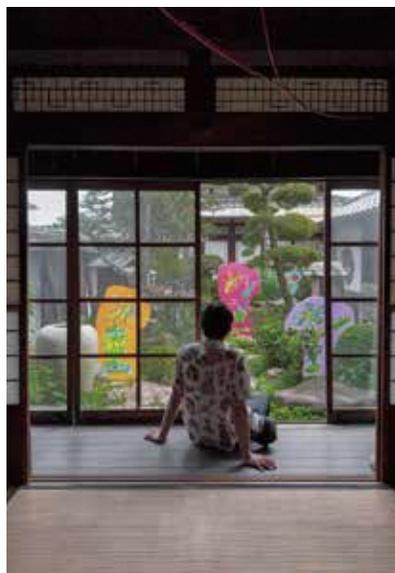
園川 絢也 Sonokawa Junya
 〈ウマレル・ツナガル〉
 インスタレーション



ウマレル ウゴメク キラメキ ノ タネ
 ゾウショク セイチョウ ヒロガル セカイ

木津川で出会う キュンとくるコト・モノ
 ココロによきとウマレル "イキモノ、

ぐんぐん ぴゅーと
 すべてのおもいが
 これからも広がり続ける によきによき
 ウマレル ツナガル セカイ へ



展示場所 ④ 上岡邸



TESSEY

〈毒と毒〉

衣装・インスタレーション



呑み込む事が出来ない違和感が
神経を伝うようにゆっくりと浸透していく

言葉に成らない感情が
全身から染み出るように精製された

毒の鎧

怪しく光を放つ
美しくも危険な纏





木津川の夕景、小石を拾い、水切りを楽しみ、広い空の遠くに沈みゆく太陽を眺めた。宇宙に在る美しい地球を体感する、瞬く間であった。

夏空の下、木津川の水面をたゆたった。悠然と流れる川に折り重なる時間。川辺の石たちは何千何万年、天為である太陽の光や風雨を浴びて来た。最新鋭の技術で、エネルギーを集めて放たれる人為の光(レーザー光)と石の出会い。

木津川に沿う人々の営み、光や水、風。茶畑や柿の木のある原風景は今日に繋がる。

ここ上岡邸の2階には家業である印刷業の名残、紙類、沢山の棚や筆筒があった。生活の品々を大切に保管して来た引き出し、茶箱などしばらく閉ざされて来た空間を開放し、初秋の空気を孕ませたい。

休憩所で腰掛け、木津川の流れの様にゆったり豊かなひと時をお過ごし頂きました。



制作協力：株式会社福寿園 CHA遊学パーク／有限会社フジタカヌー／株式会社三樹嘉七商店
国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 関西量子科学研究所／きつづ光科学館ふおとん
協力：佐藤 歌(大阪芸術大学芸術計画学科3回生)

展示場所 ④ 上岡邸

伊吹 拓 Ibuki Taku

〈モノクローム と そのとなり〉

絵画

色彩が織りなすハーモニーなどと聞くこともあるが、ただ色が混ざり合ったり重なったりするだけにしたくはない。

今回は画面の基点となる主線や面をモノクローム（黒・白・灰色）にすることで、そこから離れて溢れるような有彩の濃淡や滲み、あるいはその主線へと引き寄せられる強い引力のようなものが描いていると、よりはっきり見え隠れする。

放たれた一音は瞬間に聴こえてくるけど、その手前にある静けさや、後の余韻に支えられた一音の心地よさ。絵もそうだろうと、この具体的な形が描かれてない私の絵をこうして誰より紐解いて知りたい。

一枚の絵が一つの音と成すのであれば、この円形の吹き抜け空間にある直線・曲線美に配置された色彩が音符となり連なる譜面となる。差し込む自然光と合わさって、楽しめる場所へ足が向くか。目なのか耳なのか、脳裏に浮かぶ言葉か、心に現れる景色なのか。



清水萌花 Shimizu Moeka

〈トコトコ3〉

壁画・平面作品



「経験は行動から、行動は足から」をテーマに足を行動の起点として表し、明るく楽しい作品を制作しています。今回は「トコトコ」「トコトコ2」に加え新たに「ひらけ！おやくしょひろば♪」の様子を表現した「トコトコ3」を制作しました。作品にはワークショップで南陽高校の生徒さまが作って下さったコラージュ素材や株式会社二条丸八さまの婚礼着の端切れ、山城織物協同組合さまの襖紙を使用させていただきました。



画材提供：山城織物協同組合／株式会社二条丸八／ホルベイン画材株式会社



制作協力：京都府立南陽高等学校

展示場所 ⑤ けいはんなプラザ

松本 新 Matsumoto Arata

《毎日がお祭り！》2025

i. 《逃走(曼荼羅, トーテムポール)》/ Mixed media

ii. 《神話》/ Thermal paper, clip

iii. 《常日》/ Blue sheet

空間インスタレーション・ミクストメディア

ドン・キホーテは毎日がお祭りのよう。

資本主義のジャングルにひとたび身を投げれば、簡単に市民権が得られ、間もなくそれが日常となる。外から眺めるあれだけの喧騒はなんだったのか。全ては透明になり、ただ没頭する体験がそこにはある。そのような空間では、祝祭こそ日常であり、日常こそ祝祭なのだ。本展示で試みるのは、没頭しないこと。さながらスパイのように、ドン・キホーテの陳列それらを徹底的に異物として、内から抉り出すことだ。

参与観察を続けるうちに、あなたは外来の作品の存在などとうに忘れ、ドン・キホーテ土着の展示物に夢中になっていることだろう。



展示場所 ⑥ MEGA ドン・キホーテ UNY精華台店

君平+木村準+三橋弘宗 Kumpei / Kimura Hitoshi / Mitsuhashi Hiromune

〈PHY/WB Kizugawa〉

立体作品



この度、木津川アートへの出展を機に、美術家の君平、デザイナーの木村準、自然史系博物館学芸員の三橋弘宗の3名で共同研究に取り組みました。作品名のPHY(ファイ)は、ギリシャ語のPhyto(植物)とPHI(黄金比)を重ね合わせた造語です。これは、自然界の美と幾何学の美の両方を意味するものとして名付けました。また、スラッシュに続くWBは、「風船折り」という伝統的な技法を示しています。

私たちは、微生物に分解される彫刻を目標に、植物細胞の細胞壁の素材であるセルロースをベースに、生分解性樹脂(特殊セルロース)と蓄光顔料を含浸させた和紙素材を開発しました。技法においては、直角と45度のみ幾何学的な折り目から、生命感のある有機的なフォルムの探究を試みています。植物が光合成をするように、蓄光顔料を用いて夜間に発光する光の表現にも挑戦しました。本研究は、成安造形大学の特別研究助成金、および小規模保全技術研究所と根本特殊化学株式会社のご協力、ワークショップにご参加いただいた皆様に支えられました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

展示場所 ⑦ けいはんな記念公園 (水景園)

井上信太 Inoue Shinta

〈世界ひつじ化計画 World Sheep-nized Project〉

インスタレーション・映像

1997年羊飼いプロジェクトの放牧がはじまる。色彩のないモノクロひつじが世界各国を彷徨った。2024年に世界ひつじ化計画がはじまる。国境も国籍もないひつじたちが国旗を背負い目的もなく彷徨い始めた。コソコソと囁きながら静かに語り始める。さあ！ひつじ達の大冒険が再びはじまるのだ。今回の最初の旅の地は「木津川市/精華町」。どんな出逢いが生まれたのか。隠れひつじもどこかに生息してますよ。



〈世界ひつじ化計画 World Sheep-nized Project (6分55秒)〉
撮影地・撮影協力：州見台公園/木津川堤防/抱月工業株式会社
旧関西鉄道大仏線 梶ヶ谷隧道/玉龍山 泉橋寺/けいはんな記念公園
森本織物株式会社/JUNOPARK by SEKISUI HOUSE
吉岡家住宅/木津川市役所/高雄山 岩船寺/株式会社福寿園山城館
オムロン株式会社 京阪奈イノベーションセンタ(順不同)

制作協力：抱月工業株式会社

展示場所 ⑦ けいはんな記念公園(水景園)

新野 洋 Shinno Hiroshi

〈ここにも そこにも〉

立体作品



私は、自然豊かな土地で、植物や昆虫が持つかたちや色の美しさを日々観察しながら、作品を制作しています。

制作は、植物の採取から始まります。採取した植物を型取りし、樹脂で複製したものを、昆虫のような「いきもの」へと組み換えていきます。

これは、空想の昆虫をつくることではなく、自然の中にひそむ“似たかたち”を見つけ出し、生き物の成り立ちや自然の不思議に目を向ける試みです。

本展示では、けいはんな記念公園で採取した植物や、地域特産の茶(チャノキ)をもとに作品を制作。山城地域の自然が息づく公園で生まれた「いきもの」たちを、水景園の「観月楼」にそっとひそませました。



制作協力：けいはんな記念公園



展示場所 ⑦ けいはんな記念公園(水景園)

松本誠史 Matsumoto Seiji

〈夢宙人(2025)〉

彫刻

夢の世界と現実の世界をつなぐ扉が開かれた。

夢宙人と現実世界で遭遇したあなたは、今夜また夢の中で再会してしまうかもしれない。

私の夢からあなたの夢へ。

夢宙人はそうして人の夢の中を移動して出没するのだ。



外磯秀紹 Tonoiso Hidetsugu

〈KAZEMAKASE〉

立体作品

『茶室の躡口はソコに有ります』

茶室のにじり口とは、入り口のことです。客が身体をかがめて「にじって」入ることからその名が付き、身分の高い人でも頭を下げなければ入れないため、茶室では「俗世間と聖なる空間を隔てる結界の役割」や「万人が平等であること」を象徴する意味があります。

アーティストパフォーマンス
「泉橋跡 嫁入り夜行パフォーマンス」 TESSEY



長持を担いで川を越え、花嫁衣装を運んだという伝統行為に着目し、衣装アーティスト独自の視点で繰り広げられたパフォーマンス。夕刻に木津グラウンドからスタートし、上岡邸までの道中、一行は地元の方々にも迎えられて練り歩きました。



パフォーマンス：REMA / はなもとゆか × マツキモエ / 渡辺明日香
あやり / 堀口空璃 / 阪本はな / 嶋田京平

ライブペインティング&トークセッション
「間(あわい)のスコア」 伊吹拓 × 清野拓巳



感情を奏でる。衝動を描く。演奏家や画家の中で、その時に何が起きているのか。互いの表現領域を溶かし交えることで生まれる'あわい'。居合わせた方々と共にその気配を感じ言葉を添えていく。スペシャリスト相見える、一期一会の貴重なセッション。

